

結婚をきっかけに桑折町へ
松浦 大己さん、莉奈さん（桑島西）

居心地の良さと 人の温かさに惹かれて



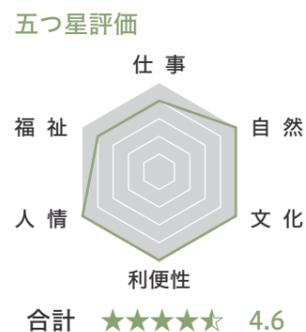
国見町出身の大己さんと福島市出身の莉奈さんは、「結婚したら、互いの実家の中間地点に住もう」と決めていました。いくつか物件を見て回る中で、家賃が比較的安く、人や車通りが少ない、閑静な雰囲気の桑折町が候補に挙がりました。「実は、以前桑折町に勤めていたことがありまして。町の皆さんが優しい人ばかりで、居心地が良いなと感じていました」と莉奈さん。



二人の散歩コースである桑折駅前広場。イチヨウ並木や花壇の草花に癒されています

大己さんも「互いの職場まで車で10分と通いやすく、立地の良さにも惹かれました」と満場一致で、桑折町へ引っ越すことにしました。婚姻届を提出しに役場へ行った際、家賃支援制度について知った二人。「地元にも似たような支援制度がありました。でも、二人とも正社員なので、収入条件に当てはまらなくて。まさか自分たちももらえるなんて思わなかった

ので、とてもありがたく感じています」。こおり暮らしを始めて、半年。平日の夜や休日は、夫婦で時間を合わせて、町探索を兼ねた散歩を楽しんでいます。「全く知らない人もあissaつしてくれて、温かい町だなと感じます。今は散歩中に見つけた菓子店に行くのが日課で、二人でよくスイーツを買って食べています」。来春出産を控える莉奈さん



information

平成30年度に立ち上げた「新婚世帯家賃支援」（詳しくは7ページに掲載）。昨年度は年間16組、今年10月1日時点で、すでに12組の皆さんが利用しています。

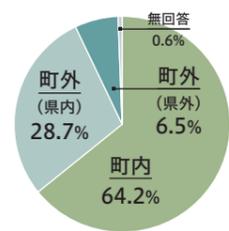
生まれ育った
大好きな桑折町で
子育てしています——



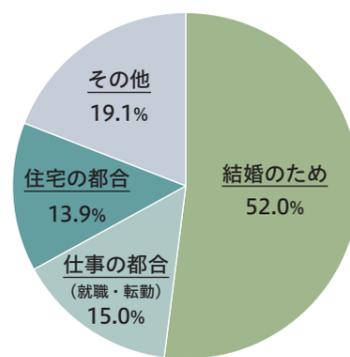
わたしの生き方・働き方 このまちを選ぶ理由

今回の特集では、さまざまな思いを胸に、桑折町で暮らすことを選んだ7人の若者を紹介します。この機会に、こおり暮らしの魅力を考えてみませんか。

あなたの出身地は？

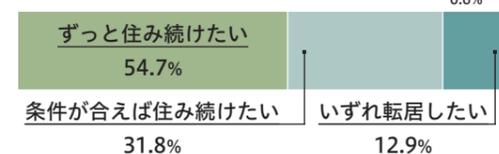


転入のきっかけは？



令和の時代になり、仕事観や結婚観、人生観が大きく変わろうとしています。どのような人生にしたいか、どこに住みたいか……。幸せの定義は、人それぞれです。私たちの未来は、さまざまな選択肢であふれています。町では、総合計画に基づき、若者がこの町に住みたい、住み続けたいと思える環境づくりを進めています。令和元年に実施した町民アンケート調査によると、今や町民の4割が、町外出身者。「結婚」や「仕事の都合」、「住宅の都合」を理由に、転入している人が多く見られます。あらゆる選択肢がある中、このまちを人生のステージに選んだ皆さんは、何を思い、

このまま町に住み続けたい？



居住意向については、「ずっと住み続けたい」が54.7%と最も多く、「条件が合えば住み続けたい」と回答した人と合わせると、8割以上の方が桑折町に定住したいと考えています。

考えたのか……。こおり暮らしを楽しむ7人の皆さんに、「このまちを選ぶ理由」を聞きました。